

## いざというときの強い味方 スタンドパイプ消火資機材

### スタンドパイプは初期消火・延焼防止に有効

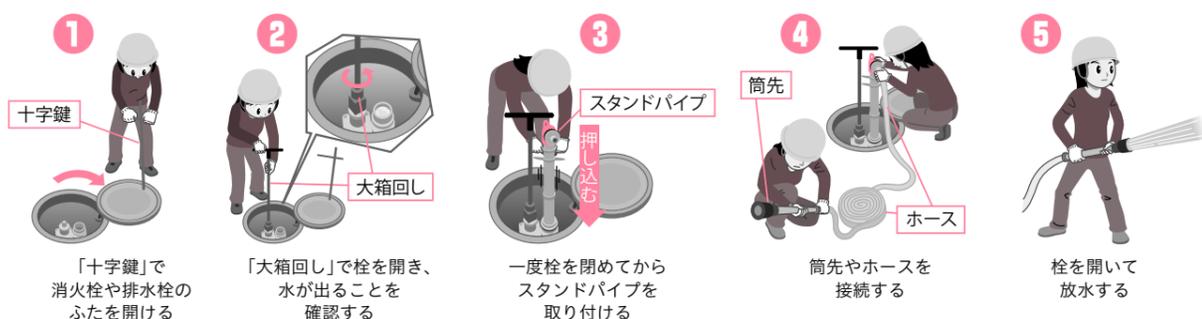
大規模地震が発生したときに、住宅密集地が多い大和市中で最も懸念されるのは火災です。同時多発火災が起これば、消防車がすぐに来られないことが想定されます。

そこで役立つのがスタンドパイプ消火資機材。その場にいる人が協力して使うことで、火が小さいうちの消火に役立ちます。また、消防車が入れない住宅密集地の狭い通路でも消火活動ができるため、燃え広がりを防ぐ効果も期待できます。



燃え広がりを防ぐため、できるだけ風下側から放水を。燃え移る前に隣家を水でぬらしておくのも効果的。

### スタンドパイプの使用方法



### スタンドパイプ実践訓練を実施

とき／ところ▶9月4日(土)午前10時～正午／やまと防災パーク  
 対象▶市内在住・在勤・在学でスタンドパイプ消火資機材を訓練などで使ったことがある人  
 定員▶先着20人  
 持ち物▶軍手、動きやすい服装で(スカートやヒールは不可)  
 申し込み▶8月31日(火)正午までに直接または電話で市消防署管理課へ。住所、氏名、年齢、電話番号を記載し、ファクスも可。

市消防署管理課庶務係 ☎(260)5779 ☎(261)1266

### 市職員が動画で紹介

動画を楽しみながらスタンドパイプを学べます。バケツリレーとの放水対決や、初めての消火体験などを配信しています。



大和市公式 YouTubeチャンネル

## 避難行動要支援者支援制度をご利用ください

「避難行動要支援者支援制度」は、重度の障がいがあるなど、災害時に自力での避難が難しい人の支援方法を事前に確認しておく取り組みです。個人情報の提供に同意した人の氏名や住所などをまとめた名簿を市が作成し、自治会、民生委員、地区社会福祉協議会と共有。災害時の避難支援や安否確認などに活用します。災害時の避難に不安がある人はご相談ください。

対象▶世帯全員が70歳以上、要介護3～5、重度の障がいなどで、自力での避難が難しい人  
 申し込み▶電話で健康福祉総務課へ。

健康福祉センター健康福祉総務課地域福祉係 ☎(260)5604 ☎(262)0999

## 3. 避難

8月20日午後1時50分—。

二人は家の前に立っていました。視線の先には大きく傾いた屋根。ラジオからは、首都圏を中心に大規模な地震が発生したことを伝えるアナウンサーの緊迫した声が聞こえてきました。

自宅が損壊してしまった二人は今後の行動について相談。自主防災会が一時避難場所に指定している最寄りの公園に行ってみることにしました。5日前に点検した非常持出品が入ったリュックを背に、自宅が損壊したお隣さんの安否を確認。一緒に公園を目指しました。

上記は一つの例です。実際に避難などをするときは、状況に応じて自ら判断することが大切です。

■災害が発生したら

**自宅や今いる場所が危険なら→安全が確保できる「一時避難場所」へ**

被害を避け、正しい災害情報を得るために一時的に避難する場所。自主防災会の活動の拠点などとなり、主に地域内の公園や空き地を各自自主防災会が指定します。

**大規模な火災が発生したら→「広域避難場所」へ**

大規模火災のおそれがある場合などに避難する場所。大きな公園などが指定されています。

**自宅は依然として危険→「避難生活施設(指定避難所)」へ**

災害により、自宅が損壊し生活できなくなった人などが一時的に生活する施設。災害の状況により市が開設します。市内の市立小・中学校、高校などの33か所を指定しています。

## 4. 避難所



8月20日午後9時40分—。

一時避難場所に指定されている近所の公園に避難していたところ、隣接する区画で火災が発生。二人は広域避難場所に指定されている泉の森に移動しました。その後、市の防災行政無線や、やまとPSメールなどから、近くの小学校で避難生活施設が開設されたことを知り、避難を検討。自宅での安全が確保できないと判断し、避難生活施設に移動しました。

小学校の体育館の入り口付近に受付が設置されています。少し手前で検温をして受付に進むと、住所や氏名、年齢などのほか、避難生活施設入所日時、アレルギーの有無など、さまざまな情報を避難者名簿に書き込みました。

その後、毛布を受け取り、体育館の中に案内されました。床に養生テープが貼られ、世帯ごとにスペースが作られています。二人は自分たちの区画に入り、荷物を置いて腰を下ろしました。

